



～地域とともにある学校をめざして～

鯨コミ

R5 CS通信No.7 R5.7.18



(コミュニティ・スクール通信) 文責 社会教育推進 DC 藤田昭彦

白八幡宮大祭学習会(西海小 1・2年生)



町教育委員会が進める「ふるさと学習」5本柱の1つである「日本遺産北前船文化」を学ぶ体験として、7月6日(木)、西海小1・2年生が、白八幡宮大祭鉦叩き体験を行いました。

講師は、中田総括学芸員、鯨ヶ沢町役場の奈良さん(笛)、中村さん(太鼓)、菊谷さん(鉦)です。

白八幡宮大祭は、津軽の京祭りと言われ、神様をお迎えする貴重な祭りです。

中田総括学芸員から、神社の神様が、神輿に乗って運行する祭りは、他にないという説明を聞いた後、子どもたちは、笛や太鼓に合わせて鉦叩き体験をしました。演奏は、「よいはー」のかけ声で始まり、途中で「えんやー」のかけ声を入れます。

初めて鉦を叩く1年生は、講師の先生の鉦を叩く姿を見ながら、笛や太鼓の音に合わせて、一生懸命、最後まで頑張っていました。

白八幡宮大祭学習会(舞戸小 3年生)



はじめに、講師の中田総括学芸員から「北前船が運んだもの」について話を聞きました。

鯨ヶ沢は、北前船の寄港地で、北前船が、米、海産物、日用品等仕入れた商品売りながら寄港していました。北前船は、1回の航海で1000両(今のお金で1億円)稼いだと伝えられており、船が難破したときの損害も大きかったという話でした。北前船が運んだ祭りが白八幡宮大祭です。

この後、子どもたちは、白八幡宮境内を見学したり、祭りの神輿を見学したりしました。白八幡宮境内に飾っている絵馬は日本でも有名な絵馬と知り、子どもたちは驚きの声をあげていました。

また、浜町町内会の協力で、山車(やま)をすぐ近くで見るといふ、貴重な体験ができました。

小中高合同鯨ヶ沢甚句流し踊り



7月8日(土)は、小中高合同鯨ヶ沢甚句流し踊りの日でした。鯨ヶ沢甚句は、ふるさと学習として小中全学年で取り組んでいて、この日の流し踊りには、小5・6年と中3年生が参加しました。

流し踊りの前には、地域学校協働活動推進員の工藤律子さんと渋谷貴子さんの声掛けで、鯨ヶ沢無形文化財保存会の皆さんが各校を訪れ、流し踊り用の踊りを指導しました。

また、当日は、学校支援ボランティアの皆さんが、流し踊りの隊列に入り、子どもたちの安全確保のお手伝いをしてくださいました。

海の駅からJR鯨ヶ沢駅までの沿道には、たくさんの保護者や地域のみなさんが応援に駆け付け、流し踊りが盛り上がりました。